

2021年6月10日 全8頁

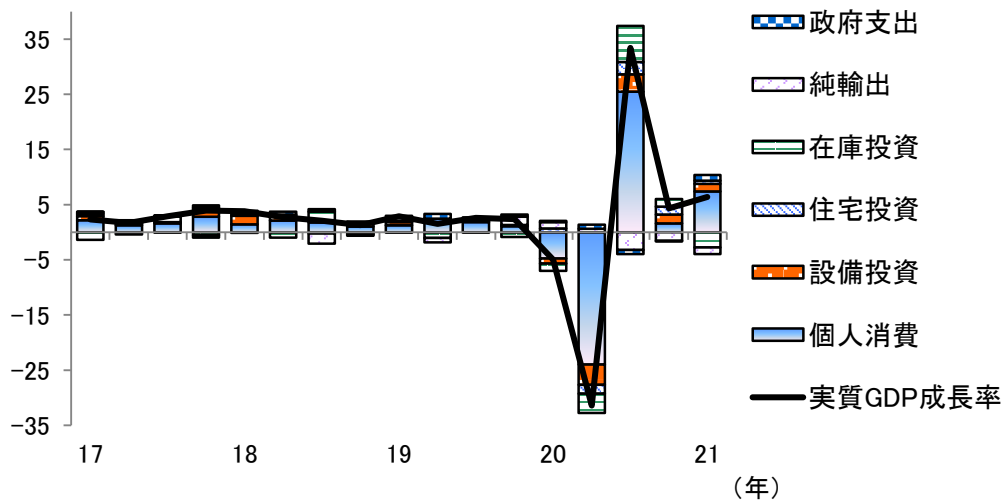
# アメリカ経済グラフポケット (2021年6月号)

2021年6月8日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美  
研究員 矢作 大祐

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



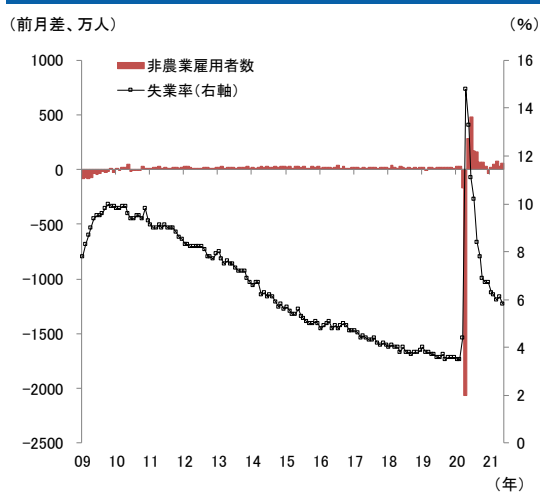
(前期比年率、%、%pt)	2019			2020				2021
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.5	2.6	2.4	-5.0	-31.4	33.4	4.3	6.4
個人消費	3.7	2.7	1.6	-6.9	-33.2	41.0	2.3	11.3
設備投資	0.0	1.9	-0.3	-6.7	-27.2	22.9	13.1	10.8
住宅投資	-2.1	4.6	5.8	19.0	-35.6	63.0	36.6	12.7
政府支出	5.0	2.1	2.4	1.3	2.5	-4.8	-0.8	5.8
輸出	-4.5	0.8	3.4	-9.5	-64.4	59.6	22.3	-2.9
輸入	1.7	0.5	-7.5	-15.0	-54.1	93.1	29.8	6.7
寄与度								
個人消費	2.5	1.8	1.1	-4.8	-24.0	25.4	1.6	7.4
設備投資	0.0	0.3	0.0	-0.9	-3.7	3.2	1.7	1.4
住宅投資	-0.1	0.2	0.2	0.7	-1.6	2.2	1.4	0.6
在庫投資	-1.0	-0.1	-0.8	-1.3	-3.5	6.6	1.4	-2.8
政府支出	0.9	0.4	0.4	0.2	0.8	-0.8	-0.1	1.0
輸出	-0.5	0.1	0.4	-1.1	-9.5	4.9	2.0	-0.3
輸入	-0.3	-0.1	1.1	2.3	10.1	-8.1	-3.6	-0.9

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

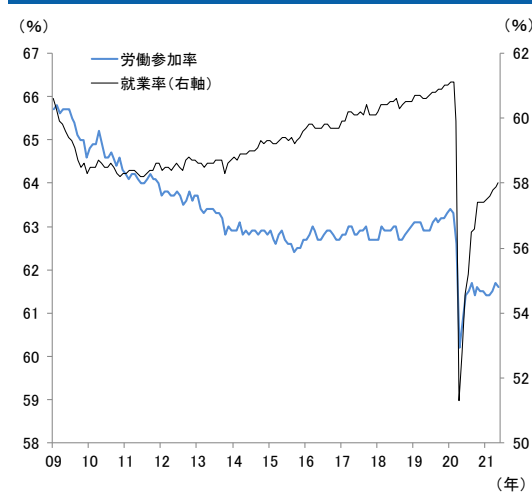
## 雇用環境<sup>1</sup>

- ◆ 5月の失業率は5.8%となり、前月から0.3%pt低下した。新型コロナウイルスワクチン接種の普及などによる経済回復で就業者数が増加し、失業率を押し下げた。
- ◆ 5月の非農業部門雇用者数の前月差は55.9万人増となった。サービス部門における雇用者数の増加ペースの加速が押し上げ要因となり、前月から増加幅は倍増した。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は34.8万人増となった。

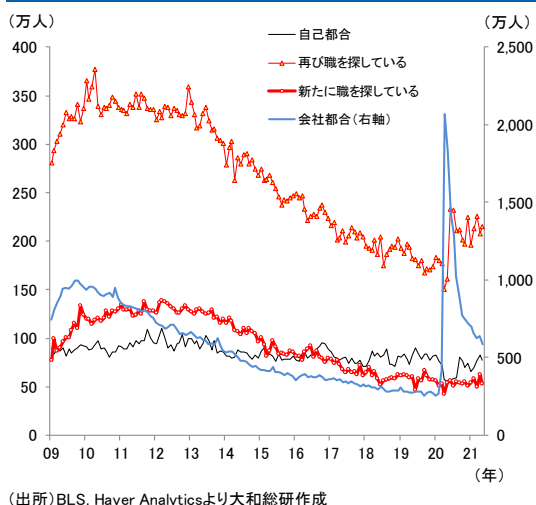
### 非農業雇用者数と失業率



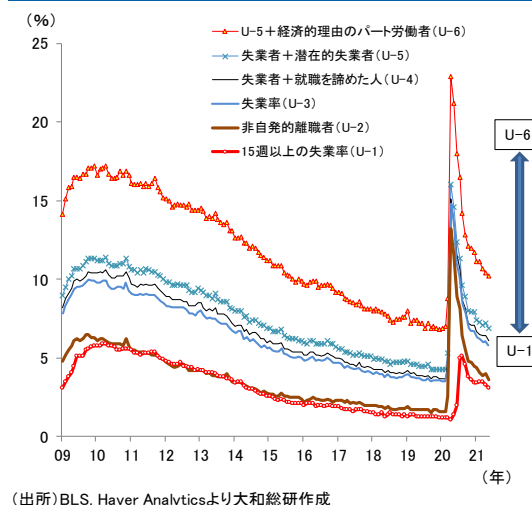
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率

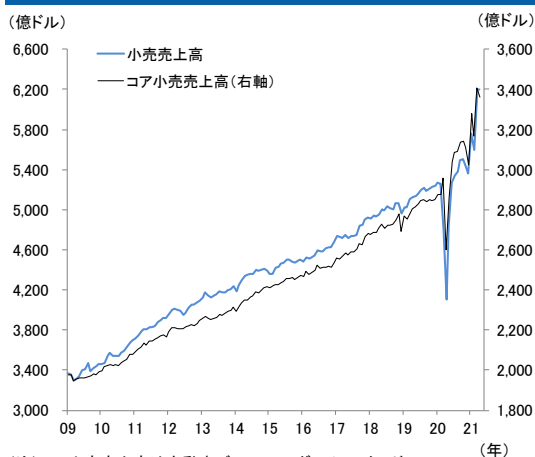


<sup>1</sup> 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+55.9万人と再加速」(2021年6月7日) 参照。 [https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210607\\_022327.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210607_022327.html)

## 個人消費

- ◆ 4月の小売売上高は、前月から横ばいとなった。なお、前月分は大幅に上方修正され、新型コロナウイルス禍前の水準を大きく上回る水準で推移している。コア小売売上高は前月比1.5%減となり、減少に転じた。
- ◆ 5月の自動車販売台数は前月比7.8%減少し、年率換算で1,709万台となった。需要は高いものの在庫の逼迫が販売に影響し、3ヵ月ぶりに減少した。
- ◆ 5月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の88.3から82.9に低下した。インフレ懸念の高まりが押し下げ要因となり、2020年3月以来の水準となった前月から低下に転じた。

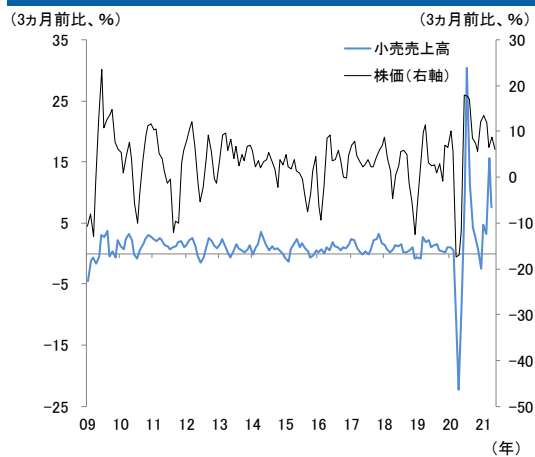
### 小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

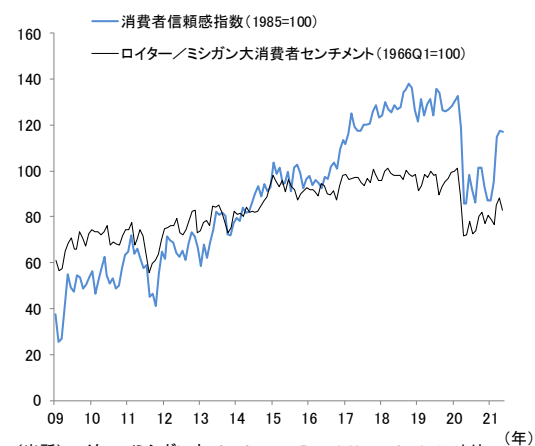
### 消費と株価



(注)株価はWilshire5000。

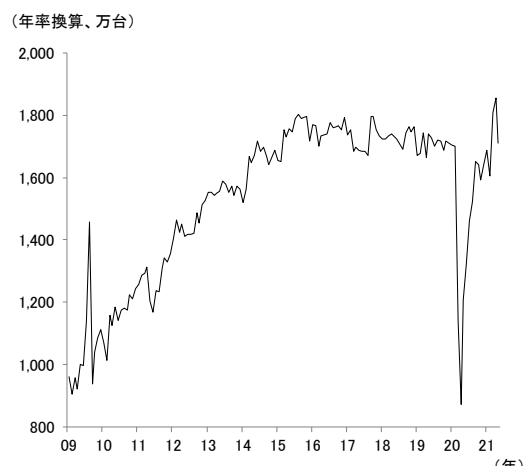
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大、Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

### 自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

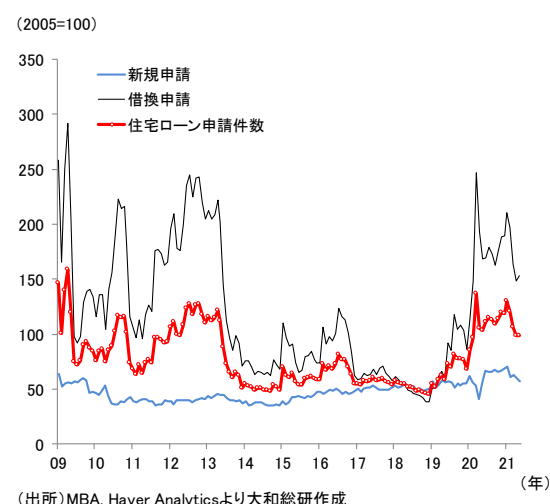
## 住宅市場

- ◆ 4月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比9.5%減の年率換算156.9万戸となった。木材価格の急騰などにより着工が控えられたものとみられ、大幅増となった前月から減少に転じた。
- ◆ 4月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比3.2%減の年率換算513.0万戸であった。記録的在庫不足とそれに伴う住宅価格の高騰で買い控えられ、4ヵ月連続で減少し、2020年6月以来の低水準となった。
- ◆ 4月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比5.9%減の年率換算86.3万戸となった。木材価格の急騰などによる住宅価格の上昇で需要が抑制され、前月から減少に転じた。
- ◆ 3月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.6%上昇した。住宅在庫の不足が住宅価格の上昇の要因となっており、高い伸びが続いている。

### 住宅販売（一戸建て）



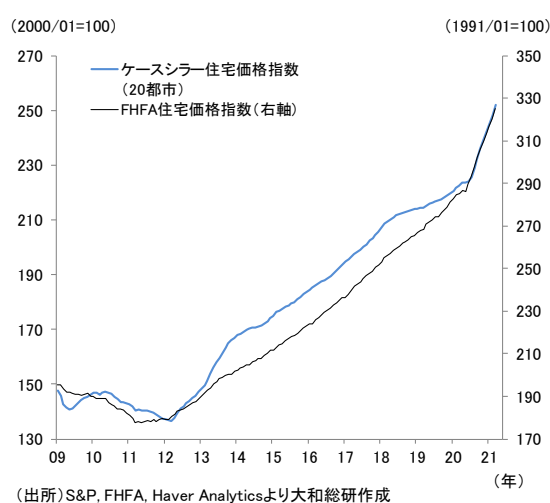
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



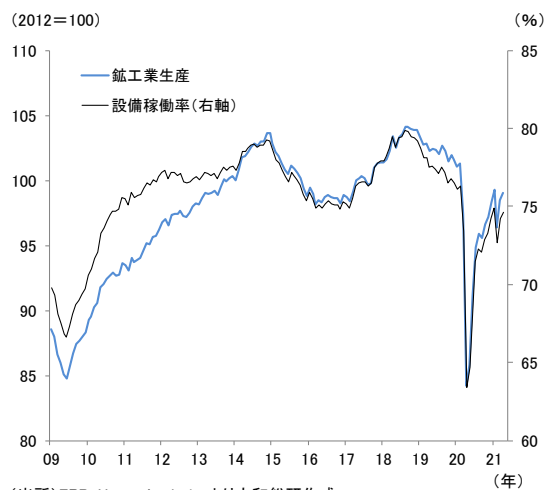
### 住宅価格



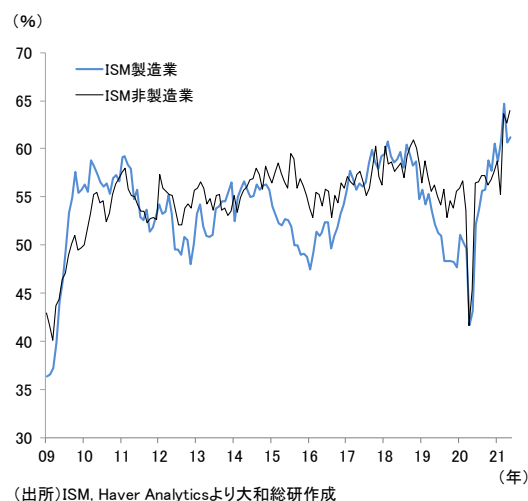
## 企業動向

- ◆ 4月の鉱工業生産指数は前月比0.5%上昇し、2ヵ月月連続の上昇となった。生産指数全体の約75%を占める製造業（SICベース）は同0.2%上昇したが、伸びが鈍化した。
- ◆ 4月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比2.2%増となった。経済回復に伴う製造業の堅調さを背景に2ヵ月連続で増加し、2020年8月以来の大幅な伸びとなった。
- ◆ 5月のISM製造業指数は前月から0.5%pt上昇の61.2%となった。経済回復に伴う繰延需要の顕在化によって、前月から上昇に転じた。非製造業指数は前月から1.3%pt上昇の64.0%となり、統計開始以降最高水準を記録した。

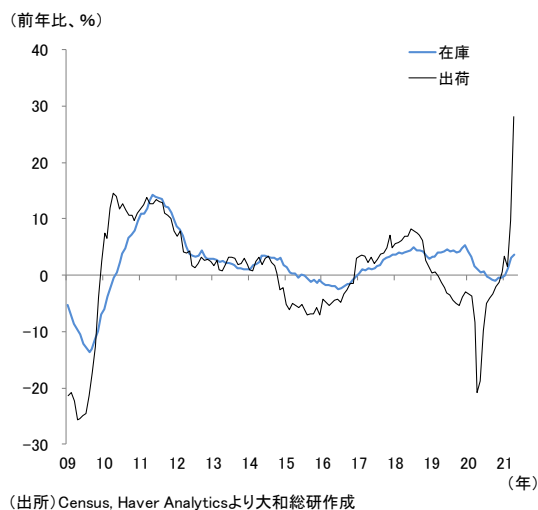
### 鉱工業生産と設備稼働率



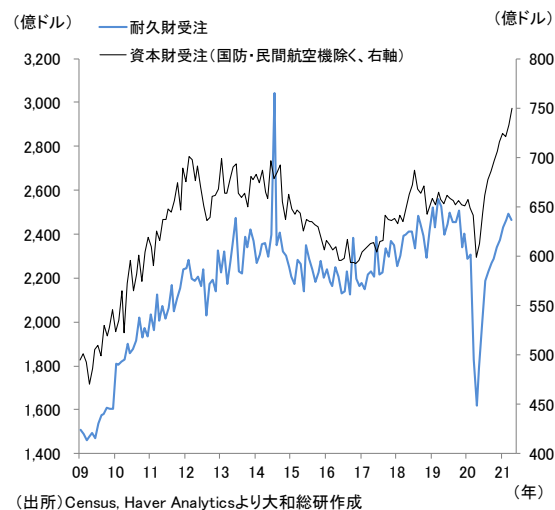
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



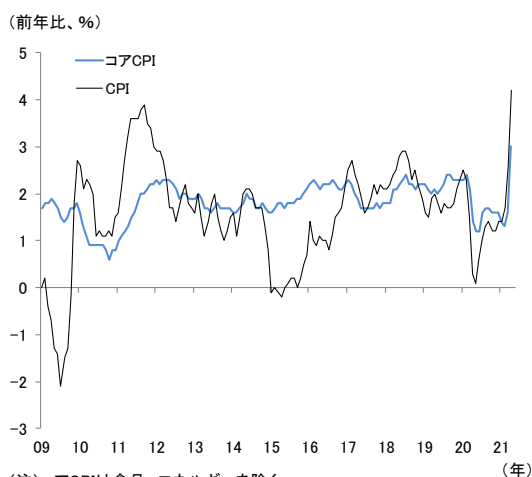
### 耐久財受注



## 物価動向

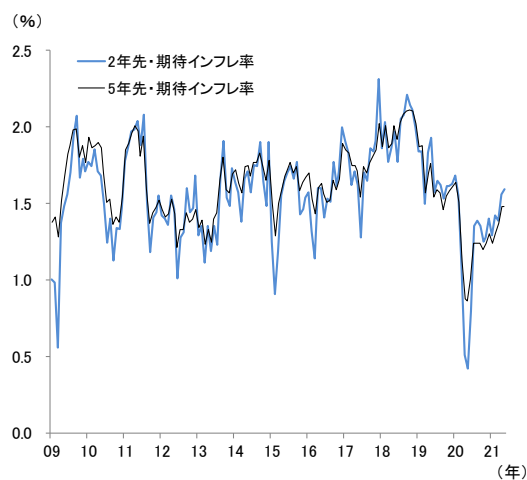
- ◆ 4月のCPI（消費者物価指数）は前年比4.2%上昇した。前年同月の低水準の伸びからの反動と、経済回復に伴う需要増や供給制約が物価上昇の圧力となり、前月から伸びが加速し、2008年9月以来の高い伸びを記録した。コアCPIは同3.0%上昇し、上昇幅が大きく拡大した。
- ◆ 5月の2年先期待インフレ率は1.59%となり、2ヵ月連続で前月から上昇した。5年先期待インフレ率は1.48%で、前月と同水準であった。
- ◆ 5月末のWTI原油先物価格は66.32ドル/バレルとなり、4月末の63.58ドル/バレルから上昇した。米国や欧州の経済回復による需要増が期待されたことなどで上昇し、月末値は2ヵ月連続で上昇し、2018年9月以来の高値となった。

### 消費者物価指数



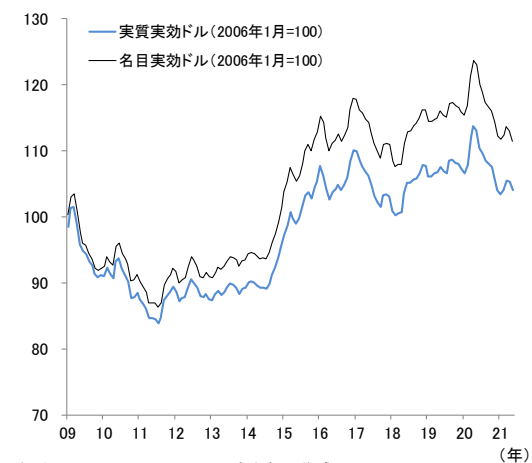
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。  
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 期待インフレ率



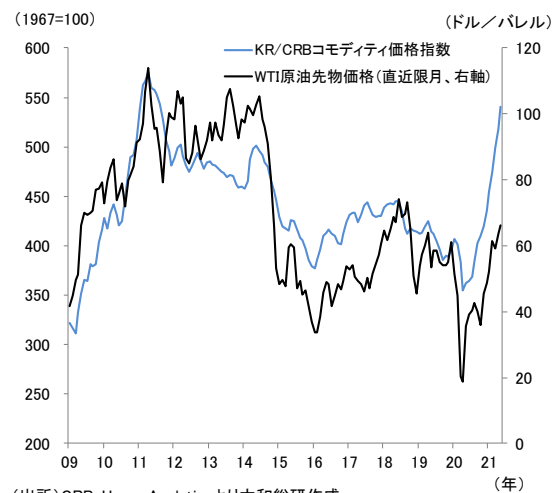
(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

### 実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

### コモディティ価格

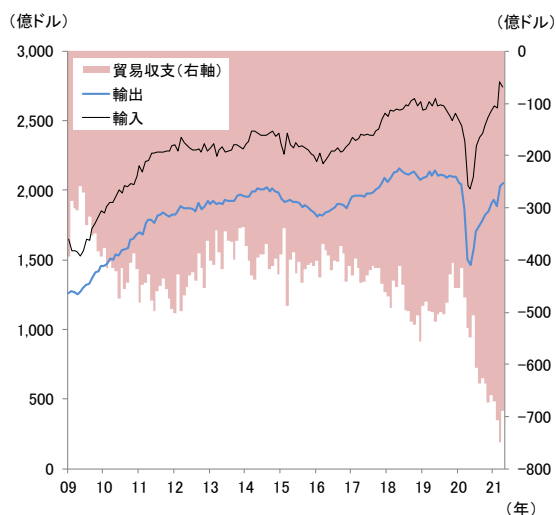


(出所)CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

## 輸出入・経常収支

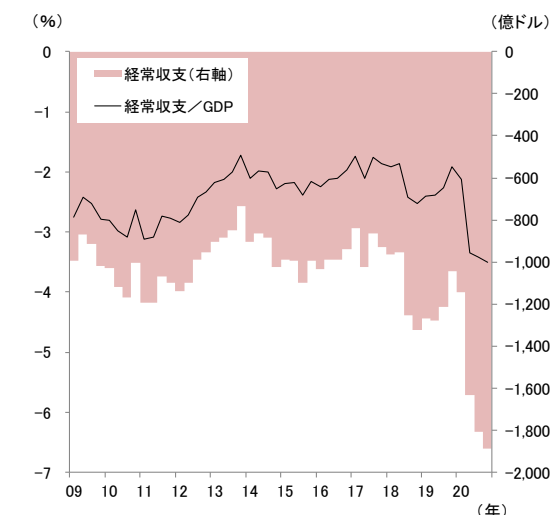
- ◆ 4月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.1%増加し、輸入は同1.4%減少した。この結果、貿易赤字は同8.2%減の689億ドルとなり、4ヵ月ぶりに縮小した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では民間航空機などの資本財が主に増加し、輸入においてはその他繊維アパレル・家庭用品といった消費財の減少が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、日本向けの輸出が前年比16.2%増となったほか、中国向けが同36.4%増、欧州向けも同46.4%増と、いずれも二桁台の大幅増となった。輸入は、欧州からの輸入が同16.6%増、中国からは同21.6%増、日本からの輸入も同26.0%増と、それぞれ二桁の伸びとなった。

### 貿易収支動向



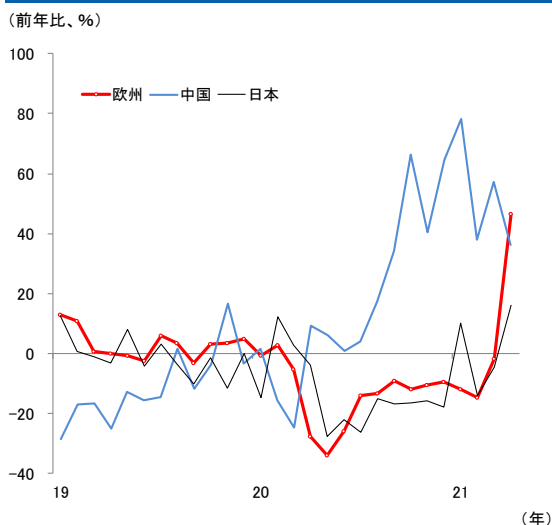
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 経常収支の推移



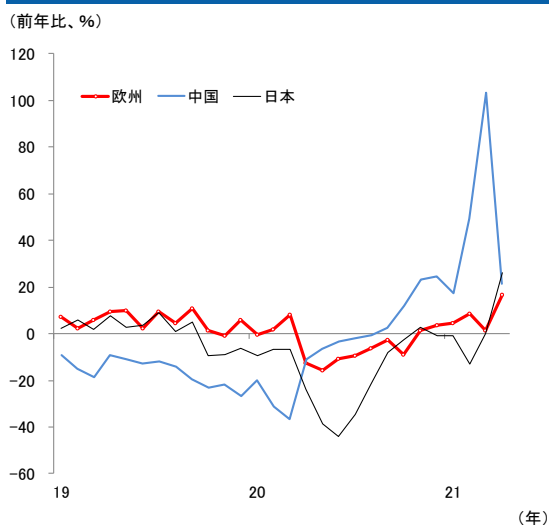
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

### 国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 国・地域別輸入動向

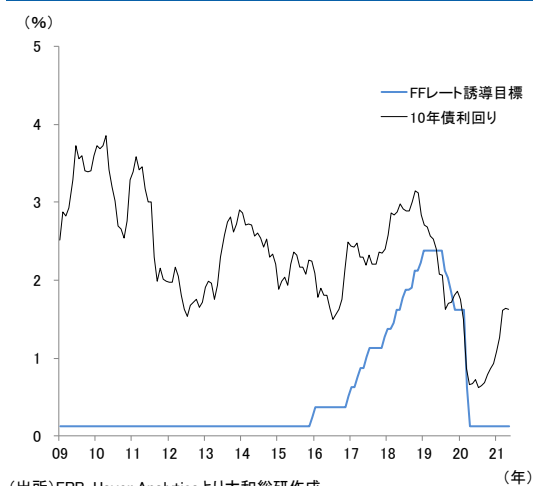


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

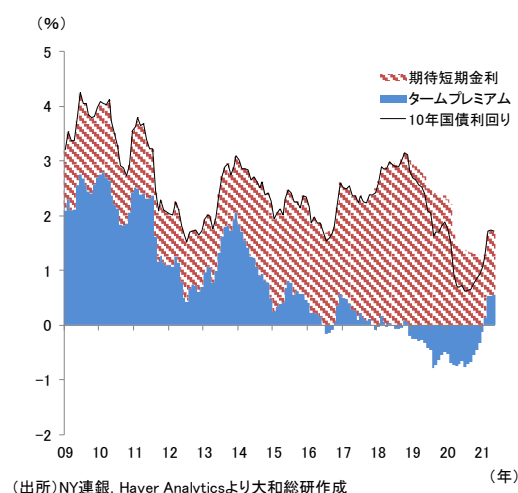
## 金融・財政

- ◆ 4月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レート目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれた。また、国債などの購入規模を変更しないことが決定された<sup>2</sup>。6月2日の週のFRBの資産残高は、平均で約7兆9,700億ドルであった。
- ◆ 5月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.62%となり、前月から若干低くなった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）については、新型コロナウイルス経済対策による歳出増加のため、赤字幅が高水準で推移している。

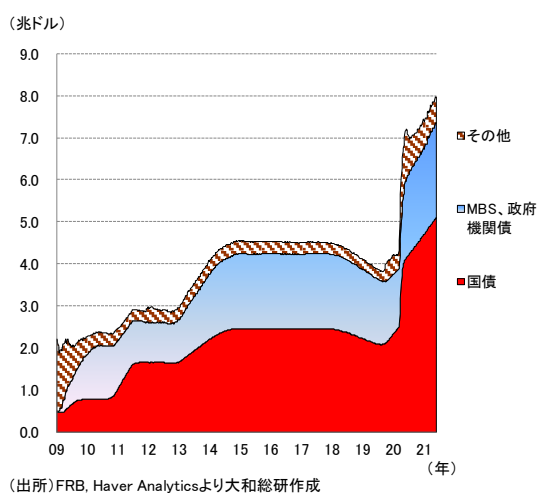
### 政策金利・長期金利



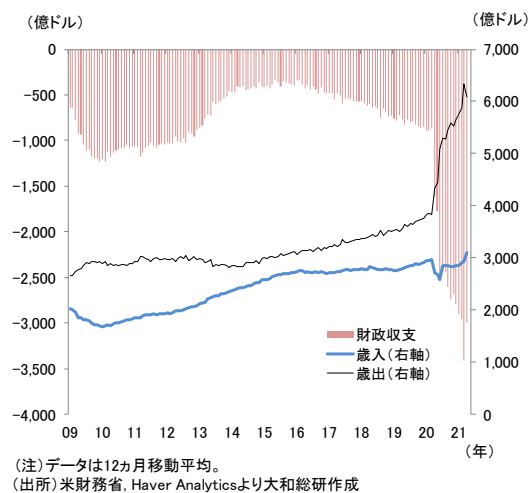
### タームプレミアム(10年)



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支



<sup>2</sup> 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC テーパリングに向け、進捗確認始まる」(2021年4月30日)参照。

[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210430\\_022257.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210430_022257.html)